

2022 年度（令和 4 年度）学部入学式 学長訓示（2022 年 4 月 4 日）

広島市立大学に入学された 422 名の入学生の皆さん、広島市立大学へのご入学おめでとうございます。広島市立大学を代表して、皆さんの入学を心より歓迎します。また、ご家族の皆さまにも、心よりお喜び申し上げます。広島市立大学の教職員および在学生にとりましても、新入生の皆様を本学に迎え入れることができましたことは大きな喜びとするところです。

広島市立大学は、「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念に掲げて、1994 年（平成 6 年）に広島市が設置した公立大学です。本学は学生数が大学院生を含めて約 2,000 名の中規模大学ですが、国際学部、情報科学部、芸術学部というユニークな学部構成を持つ総合大学であり、約 200 名の専任教員による少人数教育を特色としています。

この 2 年間、世界はコロナ禍で大変なときを過ごしてきました。感染症の世界的パンデミックは、1918 年に発生し世界で数千万人が死亡したスペイン風邪が前回でしたから、この 3 月に高校を卒業した人は 100 年に 1 度の大災厄が続く中で高校生活を送り、そして本日、大学に入学となりました。それだけに無事に大学生になれたことに安堵すると共に、大学生活に大きな希望や期待を抱いているのではないのでしょうか。

大学に入学した皆さんにはいろいろな希望や期待があると思います。そして、皆さんにはその希望を実現するだけの 4 年間という時間があります。しかしながら、「光陰矢の如し」という格言もあるように、4 年間は長いようで過ぎ去ったのちに振り返れば実は短いのかもしれません。そこで、私から皆さんに、4 年間の大学生活を有意義にするヒントをお話します。

最初は、学問についてです。皆さんは大学に何のために入学したのでしょうか。もちろん、大学入学の目的は人それぞれだと思います。将来の自分のため

に知識や技能を身に付けたい、という人もいるでしょうし、自分の未来はまだ不確定なので、自分の未来を探すために入学した、という人もいるでしょう。大学に入学した動機は何であれ、大学は「学問の場」であるということをしっかりと理解し、学問に挑戦してほしいと思います。

とは言え、大学で学ぶとはどういうことだろう、と思う人もいるかもしれません。そこで、昭和から平成にかけてジャーナリスト、ニュースキャスターとして活躍した筑紫哲也の言葉を贈ります。筑紫哲也は晩年、大学での講義を積極的に行っています。以下は大学に関する筑紫哲也の言葉です。

「大学や大学院に何しに来るかといえば、疑うことを学びに来るんです。」

これは高校までの教育と大学の教育の違いを言い当てた言葉だと私は思います。高校までは、教科書に書いてあることは正しいとして教育が行われます。もちろん、大学においても教科書を使うことはあり、過去に蓄積された知識の教授も行われます。しかしながら、大学においては、学問にはまだ分からないことがたくさんある、大学で教授される理論や知識も究極的に正しいとは限らない、ということを前提に教育が行われます。つまり、常識や当たり前を疑い、自分で考えることが大学での学びにおいてとても重要なことです。是非、こうした自律的な学びの姿勢を身に付けて下さい。それが、多様で混沌としたこの世界を理解し、生き抜いていく上で、皆さんの大きな力になると私は信じます。

次に、ヒロシマと平和について学んでほしいと思います。2月末にロシアによるウクライナ侵攻が発生し、第2次世界大戦後にかろうじて保たれてきた世界の平和が、今、危機的状況に瀕しています。国連常任理事国であるロシアが国連憲章と国際法を踏みにじって他国を侵略したことは大きな衝撃でした。本学はロシアのウクライナ侵攻に対し、侵攻開始から6日目の3月1日に「ロシアのウクライナへの軍事侵攻に嚴重抗議するとともに、被爆地広島大学の

として、核兵器の使用を示唆するプーチン大統領の発言について、強く取り消しを求めます。」という抗議メッセージを発表しました。

世界がこのような状況にある今だからこそ、皆さんには平和について考える人間になってほしいと思います。本学は建学の基本理念において、「世界平和と地域に貢献する国際的な大学」であることを掲げています。1945年8月6日に広島市で起こったことは人類が忘れてはならないことです。広島で育った人も、広島以外で育った人も、広島市立大学で学ぶことになったのを機会として、平和について深く学び、平和に対してどう向き合っていくか、世界の平和に自分が何を貢献できるかを考える人間になって下さい。

3つ目は本を読むことです。スマホが当たり前になり、ほとんどの情報はスマホで手に入れている、という人も多いと思いますが、あえて本を読むことを勧めます。「知る」ことはネット検索でもできますが、「考える」ことはコンピュータにはできません。そして、人生を豊かにしようと思ったならば、自分の頭で「考える」ことが不可欠です。ネットに流れる不確かな情報に惑わされず、物事を深く考え、適切に判断する力は読書でしか育まれません。平和を深く考える人間になるためにも読書はとても有用です。本学は「いちだい知のトライアスロン」という読書鑑賞、映画鑑賞、美術鑑賞を奨励する事業を行っていて、一定数の本、映画、美術展の鑑賞を行った人は「知の鉄人」として表彰しています。ぜひ、皆さんも「知の鉄人」を目指してがんばって下さい。

以上が私から皆さんへの大学生活を有意義にするためのヒントです。

最後に、皆さんはこれまでの2年間、コロナ禍のため、大変、制約の多い生活を送ってこられたと思います。本学も、2年前は入学式を中止せざるをえず、また、この2年間、多くの授業をオンライン授業で実施するなど、大きな影響がありました。本日の入学式についても、例年であれば広島市長、広島市議会議長をはじめ、ご来賓の方々のご臨席を賜り、式を挙行するところでしたが、

コロナ禍のためにご来賓や皆様のご家族の参列はなく、式の規模も縮小せざるを得なくなったのは大変残念に思います。

一方、コロナ禍を契機とした大学教育におけるオンライン授業の導入に始まり、この2年間、本学はICT技術を活用した教育内容と教育方法の充実に全力で取り組んできました。コロナ禍はしばらくはまだ続きそうですが、本学はウイルス感染防止に最大限の注意を払いながら、アフターコロナを見据えて、教育のデジタルトランスフォーメーションに取り組んでいます。皆様は安心して本学での勉学に励んで下さい。

民法が改正されて、この4月1日から成人年齢が18歳となり、学部新入生は全員成人となりました。社会を担う大人の一人としての自覚を持って学生生活を送って下さい。皆様の広島市立大学での日々が実り多いものになることを祈念しまして、結びとします。本日は、ご入学、誠におめでとうございます。

2022年（令和4年）4月4日

公立大学法人広島市立大学 理事長・学長 若林 真一